有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第２集

東蒲池大内曲り遺跡

（ひがしかまち　おおうちまが）

－福岡県柳川市東蒲池所在遺跡の調査－

２００７

福岡県教育委員会

有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第２集

東蒲池大内曲り遺跡

（ひがしかまち　おおうちまが）

－福岡県柳川市東蒲池所在遺跡の調査－

序

有明海沿岸道路は、福岡・佐賀両県の有明海沿岸地域の連携や交流促進を図り、かつ、一般国道 208 号線の混雑緩和などを目的として計画された地域高規格道路で、平成 19 年度一部暫定供用に向けて工事が本格化しつつあります。

この道路建設工事に伴い、福岡県教育委員会は平成 14 年度から継続して文化財調査を実施し、新たな知見を多く得てきました。

ここに報告する柳川市東蒲池大内曲り遺跡では、土坑や溝などの遺構から各種の土器・陶磁器などが出土しました。調査の結果、鎌倉時代の生活が営まれていたことが判明し、「柳川」の歴史を知る上で重要な資料を得ることができたものと考えています。本書が埋蔵文化財に対する認識と理解、文化財愛護思想の普及と学術研究の一助となれば幸いです。

なお、発掘調査及び報告書作成に当たり、御協力をいただいた地域の方々をはじめ国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所及び有明海沿岸道路派出所、柳川市教育委員会など多くの関係者の皆様に深く感謝いたします。

平成 19 年 3 月 31 日

福岡県教育委員会教育長
森山　良一

例　言

1　本書は、平成17年度に福岡県教育委員会が国土交通省九州地方整備局の委託を受けて実施した有明海沿岸道路大川バイパスの建設に先立つ埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2　東蒲池大内曲り遺跡は有明海沿岸道路大川バイパスの埋蔵文化財発掘調査第7地点に当たり、柳川市東蒲池字大内曲りに所在する。

3　本書に掲載した遺構図は坂本真一、荒巻静美、古賀富士子、原秀美が、遺物の実測図は平田春美、棚町陽子、久富美智子、田中典子、坂田順子、橋之口雅子、堀江圭子、若松三枝子、寺岡和子、中川真理子、中川陽子、坂本が作成した。製図は豊福弥生、原カヨ子、江上佳子、坂本が行った。写真について、遺構は坂本が、遺物は北岡伸一が撮影し、空中写真は九州航空株式会社に委託した。

4　本書に使用した方位は座標北である。

5　出土遺物の整理・復元作業は文化財保護課大庭孝夫の指導の下、九州歴史資料館で行った。

6　本書の執筆及び編集は坂本が行った。

7　なお、本遺跡で出土した陶磁器の分類には、宮崎亮一編2000『太宰府条坊跡XV』太宰府市の文化財第49集を参照させていただいた。

本文目次

Ⅰ　はじめに …… 1
Ⅱ　位置と環境 …… 3
Ⅲ　発掘調査の記録 …… 6
Ⅳ　おわりに ……21

写真目次

図版１　１　調査区遠景（空中写真　西から）
　　２　全景写真（空中写真　真上から）
図版２　１　西側全景１（空中写真　真上から）
　　２　西側全景２（空中写真　真上から）
図版３　１　東側全景１（空中写真　真上から）
　　２　東側全景２（空中写真　真上から）
図版４　１　１号土坑（北から）
　　２　２号土坑土器出土状況（北から）
　　３　３号土坑骨出土状況（北から）
図版５　１　４号土坑（北から）
　　２　６号土坑（北から）
　　３　７号土坑（北から）
図版６　１　３号溝（西から）
　　２　４号溝（北から）
　　３　５号溝（東から）
図版７　１　６号溝土器出土状況（西から）
　　２　７号溝（北から）
　　３　Ｂ区９号溝（北から）
図版８　１　大溝（北東から）
　　２　大溝（東から）
　　３　大溝土器出土状況（南から）
図版９　１　７号柱穴土器出土状況（南から）
　　２　８号柱穴土器出土状況（南から）
　　３　18号柱穴土器出土状況（南から）
図版10　Ｃ区出土遺物

挿図目次

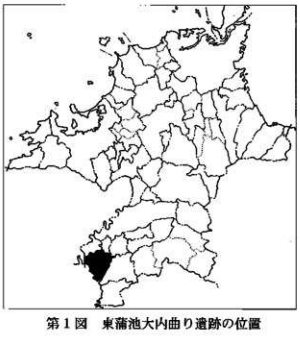
第 1 図　東蒲池大内曲り遺跡の位置 …… 1
第 2 図　周辺遺跡分布図（1/25000）…… 4
第 3 図　東蒲池大内曲り遺跡周辺字図（1/7500）…… 5
第 4 図　B・C 区遺構配置図（1/400）…… 7
第 5 図　土坑実測図（1/40）…… 9
第 6 図　土坑出土遺物実測図（33 のみ 1/4、他は 1/3）……10
第 7 図　3 号～ 7 号溝及び B 区 9 号溝実測図（3 号溝は 1/160、1/80、4 号溝は 1/80、他は 1/40）…12
第 8 図　1 号～ 6 号溝出土土器実測図（1/3）……13
第 9 図　7 号溝出土遺物実測図（1/3）……15
第 10 図　大溝実測図及び出土土器実測図（大溝は 1/160、1/40、土器は 1/3）……17
第 11 図　柱穴実測図及び出土土器実測図（1/20、1/3）……18
第 12 図　C 区出土遺物実測図（24、25 のみ 1/2、土器は 1/3）……19
第 13 図　東蒲池大内曲り遺跡 A 区遺構配置図（1/400）……22

付図　東蒲池大内曲り遺跡全体図（1/300）

Ⅰ はじめに

1）調査に至る経緯と経過

東蒲池大内曲り（ひがしかまちおおうちまがり）遺跡は柳川市東蒲池字大内曲りに所在し、有明海沿岸道路建設に伴い発掘調査した遺跡である。



第１図　東蒲池大内曲り遺跡の位置

有明海沿岸道路とは三池港、佐賀空港などの広域交通拠点及び福岡県大牟田市、柳川市、大川市、佐賀県佐賀市、鹿島市など有明海沿岸の都市群を連携することで、地域間連携、交流促進を図るとともに一般国道 208 号線等の渋滞緩和と交通安全確保を目的として計画された延長約 55㎞の地域高規格道路である。このうち、福岡県内では大牟田高田道路（L＝8.6 ㎞）、高田大和バイパス（L＝8.9 ㎞）、大川バイパス（L＝10.0 ㎞）の３事業を推進している。現在、ほぼ全線において、用地買収及び工事を実施中で、大牟田 IC ～大川西 IC 間（L＝23.8 ㎞）の平成 20 年春の暫定供用を目指して事業が進められている。

有明海沿岸道路建設に伴う発掘調査については平成 12 年 11 月に国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所（以下「福岡国道事務所」という。）から照会があった。これに対して福岡県教育庁総務部文化財保護課では平成 13 年２月に 17 地点において文化財が存在し、それ以外の地点に関しても試掘、確認調査等別途協議が必要な旨を回答した。用地を取得以後、福岡国道事務所及び有明海沿岸道路派出所と文化財保護課で随時協議を行い、試掘、確認調査を実施している。平成 16 年５月に平成 15 年度の事業について協議し、同年６月に大内曲り地区の試掘調査で埋蔵文化財の存在を確認し、発掘調査が必要である旨を回答したが、大内曲り地区に隣接する農林水産省九州農政局筑後川下流農業水利事務所管轄の幹線水路西浜武線（東蒲池上流工区）においても埋蔵文化財の存在が確認されたので、平成 17 年５月 10 日から同年 10 月 31 日にかけて国土交通省管轄分と農林水産省管轄分の両地区を併せて発掘調査を実施した。

平成 17 及び 18 年度の調査・報告に関わる関係者は下記のとおりである。

国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所

	平成 17 年度	平成 18 年度
所長	増田　博行	小口　　浩
	小口　　浩	
副所長	後田　　徹	春田　義信
	佐々木　英明	佐々木　英明
建設監督官	松尾　淳一郎	今村　隆浩
	今村　隆浩	鵜林　保彦

調査課長		鈴木　昭人
調査第二課長	鈴木　昭人	
調査係長	松本　厚廣	松本　厚廣
		川原　一哲
専門員	相島　伸行	伊東　良二
国土交通技官	篠瀬　純矢	谷川　勝
工務課長	堀　康雄	堀　康雄

福岡県教育委員会

総括

教育長	森山　良一	森山　良一
教育次長	清水　圭輔	清水　圭輔
総務部長	中原　一憲	大島　和寛
文化財保護課長	久芳　昭文	磯村　幸男（本副理事）
副課長	川述　昭人	佐々木隆彦
参事	佐々木隆彦	新原　正典
	新原　正典	
課長補佐	安川　正郷（本参事）	安川　正郷（本参事）
課長技術補佐	木下　修（本参事）	池邉　元明（本参事）
	池邉　元明（本参事）	小池　史哲（本参事）

庶務

管理係長	稲尾　茂（本参事補佐）	井手　優二
管理係	石橋　伸二	野中　顕
	末竹　元	渕上　大輔
	渕上　大輔	柏村　正央
		小宮　辰之

調査・報告書作成

調査第一係長	小池　史哲（本参事補佐）	小田　和利（本参事補佐）
調査第二係長	飛野　博文（本参事補佐）	飛野　博文（本参事補佐）
調査第二係	大庭　孝夫	大庭　孝夫（整理担当）
	坂本　真一（調査担当）	
九州歴史資料館		坂本　真一（報告書作成）

なお、発掘調査及び報告書作成に当たっては、地元の方々をはじめ、夏場の暑い日差しの中で作業をされた発掘作業員の方々と福岡国道事務所、有明海沿岸道路派出所、柳川市教育委員会の関係者の皆様に感謝いたします。

Ⅱ　位置と環境

東蒲池大内曲り遺跡は、柳川市大字東蒲池字大内曲りに所在する。柳川市は福岡県南部筑後平野の南西部に位置し、南と西は筑後川河口及び有明海が広がり、東は矢部川水系塩塚川がある。北は三潴郡大木町、東は筑後市、西は大川市、南は高田町に接し、市域の大部分が干拓によって造成された土地である。平成の大合併で近隣の大和町、三橋町と平成17年3月21日に合併し、現在の柳川市になった。人口は約75,500人（市町村要覧18、3、31）、北原白秋などの著名な文化人を輩出し、近世の柳川藩城下町の町並が現在も残り、中心部での堀を利用しての川下り、3月には柳川の雛祭りであるさげもんめぐり、中山の大フジなど観光客で賑わう福岡県内でも風光明美な都市の一つである。

柳川市内の歴史については、ほとんど歴史学の分野から研究がなされている。そのため考古学の分野からは柳川市内各所で表採された土器により、遺跡の存在は確認されていたが、本格的な発掘調査はほとんどなかった。しかし、近年、有明海沿岸道路などの大規模道路開発、区画整理などにより、市内各所で発掘調査が行われている。

最近の発掘調査では、弥生時代の遺跡で磯鳥フケ遺跡、蒲船津江頭遺跡などが挙げられる。

磯鳥フケ遺跡は、弥生時代中期後半頃の集落跡である。掘立柱建物や土坑、貯蔵穴、井戸、溝状遺構などから、弥生土器や石器、木製品が出土し、木製品の中には類例の少ない木庖丁がある。蒲船津江頭遺跡は弥生時代から鎌倉時代にかけての遺跡で、掘立柱建物の柱の根本に横木をかませて建物が沈み込まないように礎板を敷けた柱穴が多数確認され、弥生土器及び古式土師器が大量に出土した。

古墳時代及び奈良時代の遺跡は確認されていないが、須恵器及び土師器が当遺跡でも出土しており、今後の発掘調査が待たれる。

奈良時代以降では、平安時代以降の条里と考えられる溝が、東蒲池下里遺跡、西蒲池古塚遺跡、西蒲池古溝遺跡、西蒲池将監坊遺跡などで確認されている。

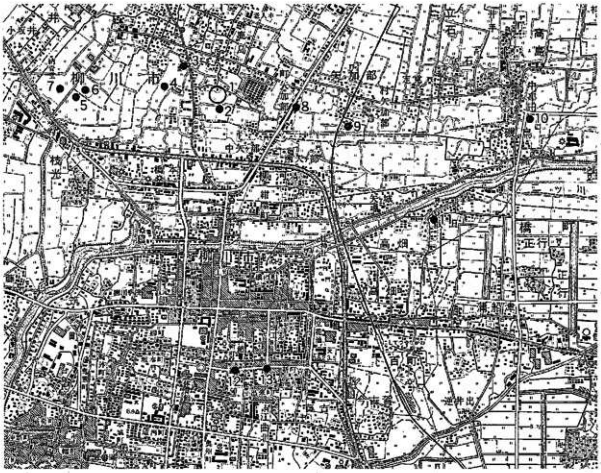
中・近世以降では、矢加部町屋敷遺跡で、江戸～明治、明治、大正～昭和のそれぞれの面が確認され、各時代の土坑、大土坑、埋甕、溝、埋設土管、井戸などが確認された。大溝（クリーク）内からは自然遺物、漆などの木製品が出土した。また矢加部南屋敷遺跡では戦国時代の集落跡で掘立柱建物、墓、不明土坑、溝が確認され、陶磁器や1423年に鋳造された「朝鮮通宝」が出土した。

さらに近世の城下町などに関係する細工町遺跡・新町遺跡では、近世から近代にかけての町屋敷、土坑、溝が確認され、陶器、磁器、瓦、下駄および桶などの木製品が出土した。また本町・袋町遺跡では掘立柱建物、土坑、溝、柱穴が確認され、陶器、磁器、瓦が出土した。

他にも当遺跡の所在する東蒲池では、当遺跡南側の東蒲池榎町遺跡がある。ここでは弥生時代、奈良～鎌倉時代、江戸時代以降の土坑20基と溝12条、堀跡、柱穴が確認され、各時代の土器及び石器が出土した。また、西側の蓮池遺跡でも中世及び近世の溝が確認されている。

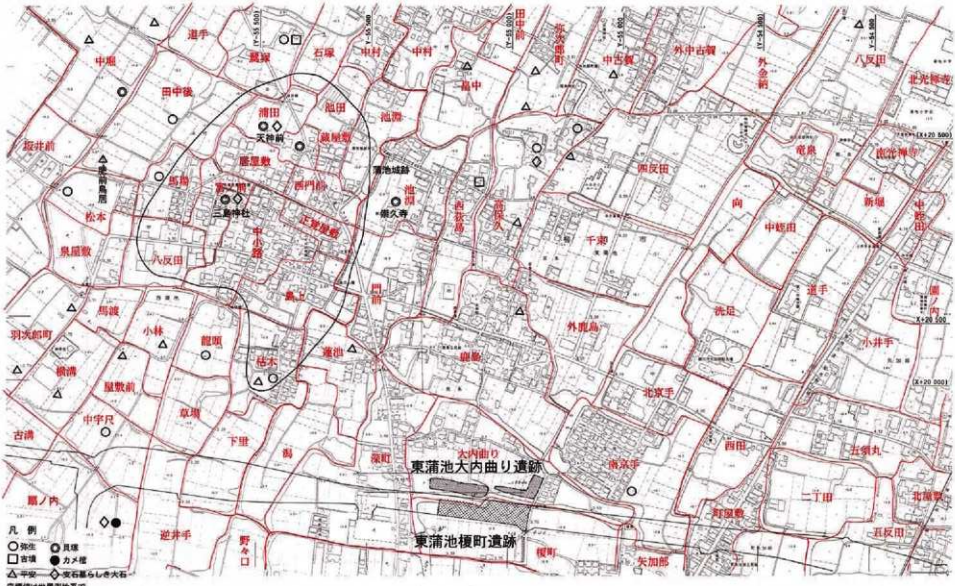
なお、12世紀頃の蒲池地区は宝荘厳院領中最大の荘園である三猪荘に関係する。また、14世紀には蒲池氏の拠点となる蒲池城が築かれている所でもあり、当遺跡も何らかの関係が考えられる。今後、更に発掘調査の増加によって柳川市内の歴史が少しずつ解明されるだろう。

(参考文献)
柳川市史編集委員会 別編部会編 2002『新柳川明証図会』
川添　昭二編 2004「柳川市」『福岡県の地名』平凡社
福岡県教育委員会編 2004『福岡県埋蔵文化財発掘調査年報　平成14年度』
今井　涼子編 2005『東蒲池榎町遺跡』「有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告」
福岡県教育委員会
福岡県教育委員会編 2005『福岡県埋蔵文化財発掘調査年報　平成15年度』
上田　龍児編 2006『磯鳥フケ遺跡』柳川市文化財調査報告書第1集　柳川市教育委員会
福岡県教育委員会編 2006『福岡県埋蔵文化財発掘調査年報　平成16年度』
福岡県教育委員会編 2006『有明海沿岸道路発掘だより　1号』
坂本　真一編 2007『東蒲池大内曲り遺跡』柳川市文化財調査報告書第2集　柳川市教育委員会



1．東蒲池大曲り遺跡
2．東蒲池榎町遺跡
3．蓮池遺跡
4．東蒲池下里遺跡
5．西蒲池将監坊遺跡
6．西蒲池古溝遺跡
7．西蒲池古塚遺跡
8．矢加部町屋敷遺跡
9．矢加部南屋敷遺跡
10．磯鳥フケ遺跡
11．蒲船津江頭遺跡
12．本町袋町遺跡
13．細工町・新町遺跡

第2図　周辺遺跡分布図（国土地理院 1/25000より）



第３図　東蒲池大内曲り遺跡周辺字図（1/7500）

Ⅲ　発掘調査の記録

東蒲池大内曲り遺跡では、国土交通省管轄の1200㎡を調査対象とした。なお、当遺跡は農林水産省分と国土交通省分の両地区を同一の遺跡とした。それぞれの調査区名を農林水産省分はA・B区とし、今回報告する国土交通省分はC区として発掘調査を実施した。発掘調査はまず当遺跡東側の逆L字状のA区から始まり、A区終了後、西側の長方形状の範囲のうち、北側のB区と南側のC区を同時並行で発掘調査を行った。

当調査区の土層は、第1層として表土及び床土が30cmほど堆積し、第2層に40cmほどの鉄分を少し含む黄灰色粘質土があり、その上面で遺構や遺物を確認した。遺構の有無を確認するために更に掘り下げたところ、第2層よりも鉄分を多く含む黄灰色粘質土の第3層が90cm程堆積し、更にその下に第4層として、青灰色粘土がみられた。ここではこの第2層上面の標高2.7ｍ前後を遺構面と設定した。

平成17年8月からB・C区の調査を開始し、西側からバックホーで剥ぎ始めたが、クリークの間際の西側では全く遺構を確認できなかったので、遺構を確認できた部分から、表土等を剥ぎ始めた。土置き場の関係により、まず調査区の2/3を剥ぎ、その部分が調査終了し埋め戻した後に、残り1/3も同様にして、10月31日に発掘調査を終了した。

なお、C区は南側に流れるクリークの間際にあり、コンクリートで護岸工事した前の旧クリーク跡のラインが南側で確認できた。この旧クリーク跡のため調査区西側～南側にかけては、遺構はあまり検出できなかった。当調査区では土坑6基と溝7条、柱穴多数を確認し、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器椀、白磁碗や青磁碗などの陶磁器がパンケース3箱分出土した。

また隣接する農林水産省分のA・B区内からは12～13世紀の掘立柱建物8棟（B区内では2棟）、土坑26基、溝11条を確認し、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器椀、白磁碗、青磁碗など陶磁器が出土した。（詳細は柳川市文化財調査報告書第2集『東蒲池大内曲り遺跡』を参照）

1）土坑（図版4、5、10　第5、6図）

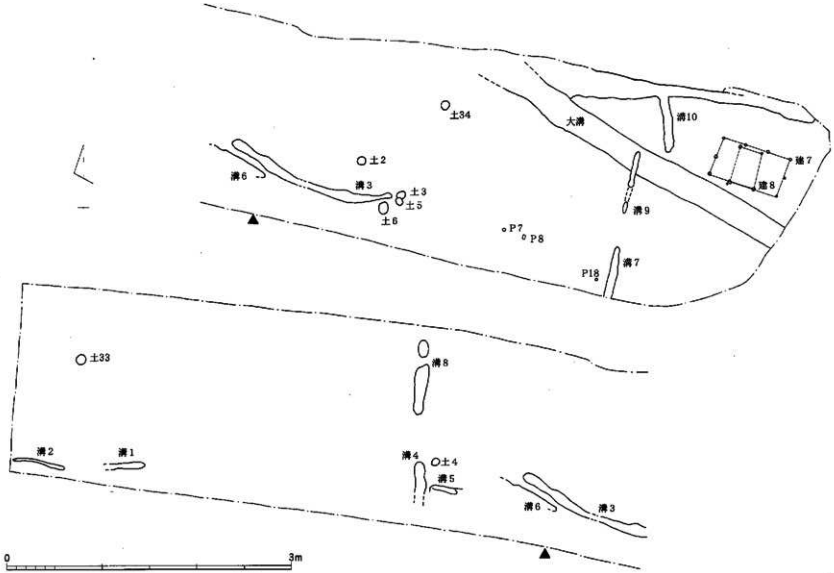
調査区内からは中央から東側にかけて7基の土坑を確認したが、このうち5号土坑は近年の攪乱と考え、ここでの報告を省略している。

1号土坑（図版4　第5図）

調査区中央付近にあり、南側は一部クリークに切られるが、ほぼ円形の直径90cm、深さ98cmを測る土坑である。底面付近は少し中へえぐれる形になり、またクリークに近いためか、水が湧き出し、井戸の可能性がある。埋土からは暗灰色粘質土と黄灰色粘質土が混ざり、土師器坏片、須恵器甕片、瓦器椀片、白磁碗片などが出土した。

出土土器（第6図）

1は須恵器甕の胴部片か。破片のため傾きなど不安であるが、外面に格子目叩き、内面には同心円叩きを有する。2は土師器坏の口縁部片か。内外面ともナデ調整で、かなり明瞭に段がつく。3も土師器椀の高台片か。高台はやや高く、外側へ開く。4は瓦器椀の胴部片で、外面に段がつき、内外面とも斜め方向のミガキ調整である。5は白磁碗の高台片で、かなり肉厚で外面は露胎し、内面は底部付近に沈線が一条めぐり、施釉する。Ⅳ類か。



第４図　Ｂ・Ｃ区遺構配置図（1/400）

2号土坑（図版4　第5図）

1号土坑の北側にあり、楕円形状で長径90cm、短径80cm、深さ15cm程の浅い土坑である。埋土は暗灰色粘質土に黄灰色粘質土ブロックが混ざっていたが、北側半分は埋上との差がよく分からず少し掘りすぎてしまった。かなり摩滅した弥生土器片らしき底部片を確認した。

出上上器（第6図）

6、7とも弥生土器の底部片か。ほとんど摩滅するが、外面は指頭圧痕が残り、内面もナデの痕跡が明瞭に残る。

3号土坑（図版4　第5図）

1号土坑の東側に位置し、南側は近年の攪乱である5号土坑に切られる。隅丸長方形状を呈し、長さ100cm、幅70cm、深さ30cmを測る土坑である。埋土は暗灰色粘質土と黄灰色粘質土が混ざる。底面付近でかなり状態が悪い白色の薄い骨状のものを確認したが分析は行っていない。

出土土器（図版10　第6図）

8、9とも土師器片で、8は坏の口縁片で外面に稜線が残る。9も坏の底部片で糸切り、10は白磁碗底部片か。高台は肉厚で低いが、復元高台径5.9cmを測り、内面には櫛や箆による草花文様状のものがわずかに残る。Ⅶ類か。

4号土坑（図版5　第5図）

調査区中央付近にあり、長径100cm、短径70cm、深さ20cmを測る長円形状の土坑である。埋土は暗灰色粘質土ブロックと黄灰色粘質上がうすく混ざっていたので掘り下げた。断面は逆台形状を呈し、出土遺物はなかった。

6号上坑（図版5　第5図）

3号～5号土坑のすぐ西側にあり、隅丸長方形状の土坑である。長さ120cm、幅90cm、深さ15cm程になる。周辺に比べ、暗灰色粘質土が多く含まれていたので掘り下げてみたが、瓦器椀片が1点のみ出土した。埋土は暗灰色粘質土と青灰色粘質土が混ざる。

出上上器（第6図）

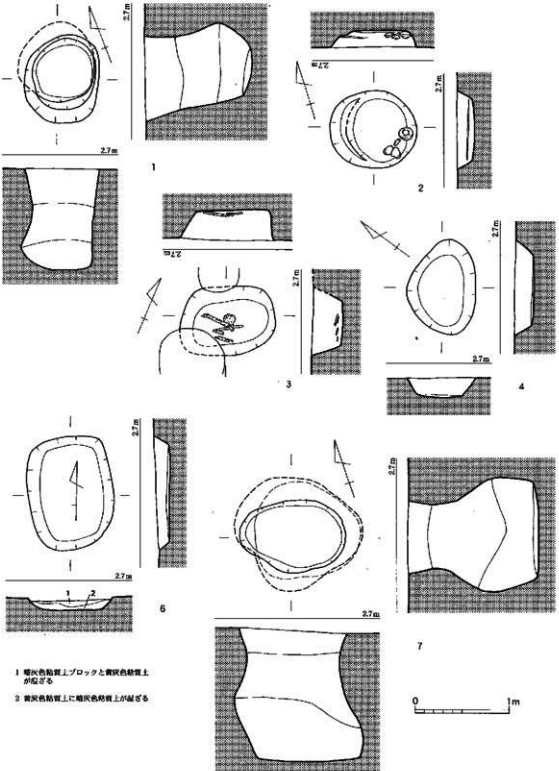
11は瓦器椀高台片で、摩滅していて調整は不鮮明だが、かなり軟質である。高台部分は三角形状になる。

7号土坑（図版5　第6図）

調査区東側にあり、長径110cm、短径75cm、深さ140cmを測る長円形状の土坑である。暗灰色粘質土や黄灰色粘質土、黒色粘質土などが混ざる。下半部では中へえぐれるような形になり、標高1.2m付近では水が湧き出した。可能な限り、土層を見ながら掘り下げてみたが、井戸枠などの木片は確認できなかったが、他の土坑と比べてもかなり深く掘り下げられており、素掘りの井戸か。瓦器椀片も多く出土したが、接合はしなかった。また、Ⅳ類及びⅤ類又はⅧ類の白磁碗片がわずかに出土した。

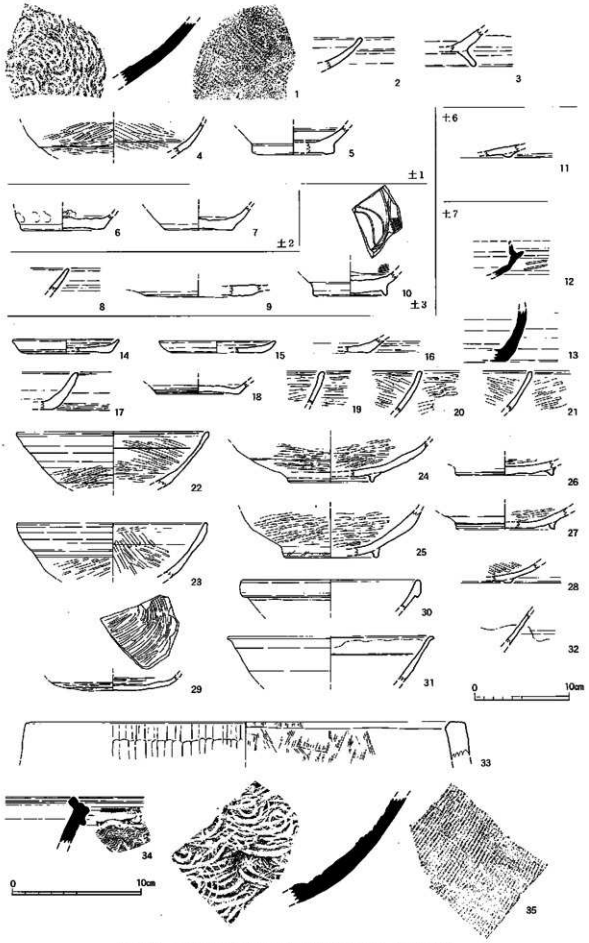
出土土器（図版10　第6図）

12は須恵器坏身片、13は甕などの底部片で、外面にヘラケズリを施し、内面はナデが残る。



第5図　土坑実測図（1/40）

14～18は土師器片である。14、15は小皿片で復元口径8.4cm、9.2cm、器高1.1cm、0.95cm、復元底径7.2cm、7.4cmを測る。外面底部は糸切りである。18は外面底部は糸切りだが、板状圧痕状の痕跡が明瞭に残る。19～28は瓦器椀片である。19～21は口縁部片で内外面とも



第６図　土坑出土遺物実測図（33 のみ 1/4、他は 1/3）

ミガキが残る。22は復元口径15.6cmで、内外面ともミガキが施され、胴部中程にかけて薄くなるが口縁端部にかけて膨らむ。23は復元口径15.5cm、外面の口縁のみナデで、ほかはミガキ調整である。24は復元高台径6.8cm、内外面ともミガキで高台部分は多少変形してはいるが、ほぼ三角形状になる。25も同様であるが体部は肉厚であり、復元高台径7.4cmを測る。26～28は高台片で、26、27は復元高台径7.8cm、内面に僅かにミガキが残る。29は瓦器皿片で内外面ともミガキがかなり密に施される。30は白磁碗片で緑灰色の釉を施し、口縁部は玉縁になる。復元口径14.0cmを測る。Ⅳ類か。31も白磁碗片で口縁端部は嘴状になる。復元口径16.2cmを測り、内面には沈線が1条巡る。Ⅴ類又はⅦ類か。32も白磁碗片か。33は石鍋口縁部片で復元口径46.0cmを測り、外面には縦方向の研磨痕が残り、内面にも薄く痕跡がある。34、35は7号土坑を検出する際に1段下げて出土した須恵器である。34は甕などの口縁部片か。外面に波状文が残る。35は甕の胴部片か。外面は平行叩き、内面には同心円の叩きが残る。

2）溝（図版6、7、10　第7、8図）

クリークの埋土に切り込んでいる溝である1号溝、2号溝は攪乱と考え、これらに関しての遺構については述べていないが、出土遺物については取り上げている。

1号・2号溝出土土器（第8図）

1は1号溝出土の土師器の甕の口縁部片か。全体的に摩滅する。2、3は2号溝出土で、2は須恵器の坏蓋片か、外面に自然釉がつく。3は土師器の甕または壺の口縁部片で復元口径15.2cmを測る。口縁は外側に開き、内外面とも板ナデ状の痕跡が残る。

3号溝（図版6　第7図）

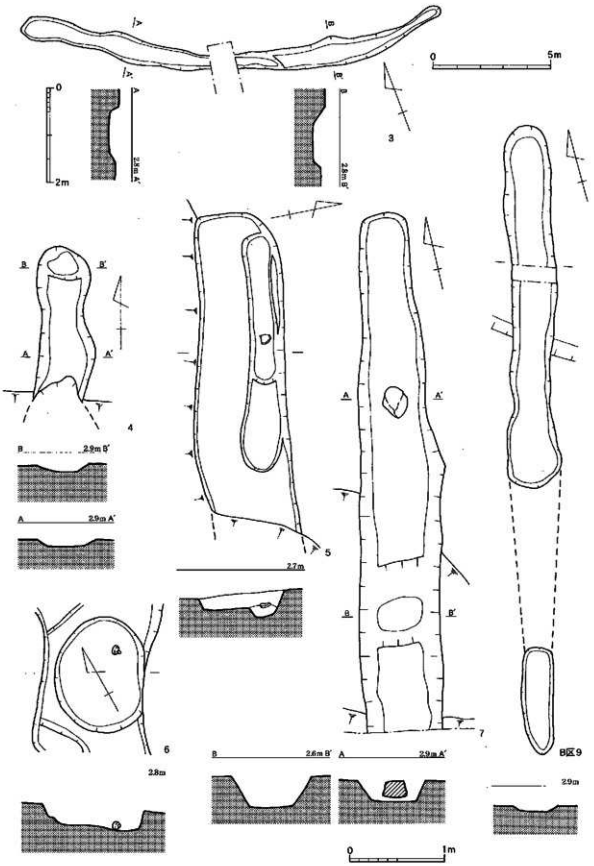
調査区中央付近に位置し、南側の旧クリーク跡に沿ってほぼ平行に東西方向に延びる。長さ約18m、幅75～100cm、深さ20～35cmを測る。埋土は灰褐色粘質土や暗灰色粘質土、黄灰色粘質土などが混ざる。出土土器には古墳時代の須恵器片、土師器片が多いが、僅かに1点中世の土師器小皿の底部片が混ざっており、中世頃の溝もしくは、旧クリークに関連したかなり新しい溝の可能性が高い。

出土土器（第8図）

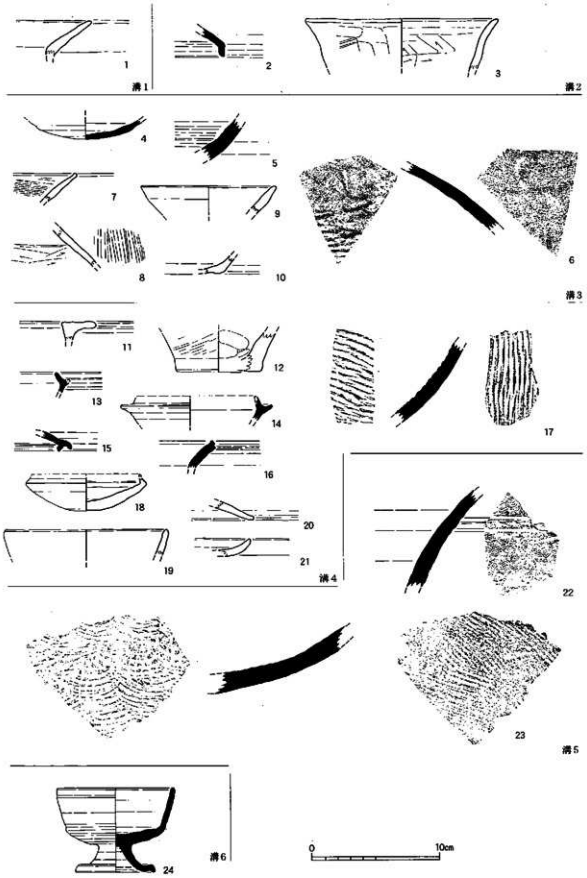
4～6は須恵器である。4は坏の底部片で、外面底部にヘラ記号が残る。5は甕または壺の底部片か。外面はヘラケズリを施し、内面はナデ調整である。6は甕の胴部片か外面はカキ目が残り、内面は同心円の叩きが施される。7～11は土師器片である。7と8は古式土師器の甕片か。7は口縁部片で、内面に刷毛目が残る。8は胴部片で、外面は刷毛目、内面はケズリが残る。9は坏片か。復元口径10.6cmを測り、口縁部付近で僅かに内湾する。10は摩滅するが坏の底部片か。

4号溝（図版6　第7図）

調査区中央よりやや西側に位置し、南側の旧クリーク跡に切られる南北方向に延びる溝である。長さ3.3m、幅約1.2m、深さ15cmを測る。埋土は暗灰色粘質土が混ざり、弥生土器片、須恵器片、土師器片が出土した。かなり時代幅のある土器が混ざっており、4号溝もクリーク



第７図　３号～７号溝及びＢ区９号溝実測図（3 号溝は 1/160、1/80、4 号溝は 1/80、他は 1/40）



第８図　１号～６号溝出土土器実測図（1/3）

に向かって傾斜しており、これも旧クリークと関連するかなり新しい溝の可能性が高い。

出土土器（第８図）

11 と 12 は弥生土器片か。11 は甕の口縁部片か。全体的に摩滅していて調整は不明である。12 は甕の底部片か。外面には刷毛目とナデ、内面にはナデ調整が残る。13 ～ 17 は須恵器である。13、14 は坏身の口縁部片で、14 は口縁を欠損するが、推定復元口径で 8.4cmを測る。15 は坏蓋口縁部片で、16 は甕または壷の口縁部片か、外面は黒色を呈する。17 は甕の胴部片か。内外面に平行叩きが残る。18 ～ 21 は土師器片である。18 は坏片か。内外面ともナデ調整で口縁部にかけて内側に反り、底部はかなり厚めになる。19 は坏もしくは椀の口縁部片か。復元口径 12.8cmを測り、ナデ調整である。20 は甕の口縁部片か。口縁にかけて外側に開く。21 は摩滅するが皿片か。

５号溝（図版６　第７図）

４号溝のすぐ東側に位置し、旧クリーク跡に接し切られ、東西方向に延びる溝である。長さ 3.4 m、幅 1.0 m、深さ 30cm程を測る。北側ではさらに一段下がり、長さ 2.1 m、幅 45cmを測り、須恵器の甕片が出土した。埋土は、旧クリーク跡の埋土と異なる暗灰色粘質土ブロックと黄灰色粘質土ブロックが混ざり、古墳時代後期頃の須恵器片が出土したが、これも３号・４号溝同様に新しい溝の可能性が高い。

出土土器（第８図）

22 と 23 は須恵器の甕片か。22 は頸部片で外面に波状文がつき、内面はナデ調整である。23 は甕の底部片で、外面は格子目叩き、内面には同心円叩きである。焼成は良好だが橙白色を呈する。

６号溝（図版７　第７図）

３号溝の南側に位置し、旧クリーク跡の間際で確認した。最初は汚れた暗灰色粘質土の埋土が長さ 6.0 m、幅深さ約 10 ～ 20 mを測り、溝かと考えたが、須恵器の無蓋高坏のみしか出土していない。土器が出土した部分はさらに長さ 1.25 × 9.5 m、深さ 5cmを測る長円形状の浅い土坑状に確認できたので、土坑とも考えられる。

出土土器（図版10　第８図）

24 は須恵器の無蓋高坏で、脚部は一部のみ残存している。口径 9.6cm、器高 6.6cm、復元高台径 6.3cmを測り、内外面ともナデ調整である。

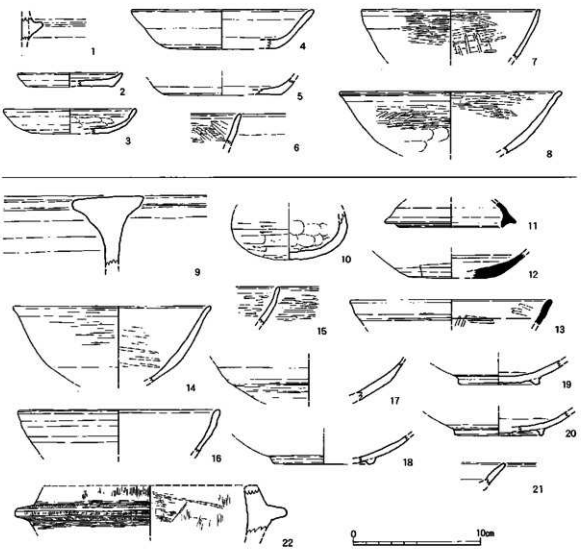
７号溝（図版７　第７図）

調査区東側にあり、旧クリーク跡に直交してほぼ南北方向に延びる溝である。長さ 5.5 m、幅 85cm、深さ 20 ～ 30cmを測る。埋土は灰色砂質土や暗灰色粘質土、黄灰色粘質土などが混ざる。クリークに向かって段々と深くなり、溝の中程では約 30cmほどの石があった。これはＢ区で確認した９号溝に繋がる可能性がある。南側は旧クリーク跡に切られ、周辺からは遺構検出時に瓦器椀片が出土した。

出土土器（図版10　第９図）

１は弥生土器胴部片か。２～５は土師器片か。２は小皿片で復元口径 8.2cm、器高 1.1cm、復

元底径 6.8cmを測る。外面底部は糸切りである。3は皿片で、復元口径 10.4cm、器高 1.9cm、復元底径 6.0cmを測り、外面底部付近はケズリ、内面はナデが明瞭に残る。4は坏片で復元口径 14.3cm、器高 2.1cm、復元底径 8.6cmを測る。内外面ともナデ調整である。5は坏の底部片か。内面はナデで、外面底部は糸切りの痕跡が残る。6～8は瓦器椀片か。6は口縁部片で内面にミガキが残る。7は橙白色を呈し、復元口径 14.2cmを測る。内外面とも横方向のミガキが残り、内面下半は縦方向のミガキが残る。8は口縁に向かって外側に開き、復元口径 17.6cmを測る。内外面ともミガキ調整で、外面下半はナデ状の痕跡が残る。9～22は7号溝周辺で出土した土器である。9は汲田式頃の甕棺口縁部片で内外面ともナデ調整か。10は古式土師器の小型丸底壺片か。外面は横方向のケズリが残り、内面に指頭圧痕が残る。11～13は須恵器である。11は坏蓋片で復元口径 10.4cmを測り、内外面ともナデ調整である。12は坏身の底部片か。外面にはヘラケズリ、内面はナデ調整である。13は椀の口縁部片か。焼成は良好で固く焼けている。口縁部片で復元口径 16.0cmを測る。内外面にミガキ状の痕跡が僅かに残り、瓦器椀の可能性がある。14～20は瓦器椀片で、14は復元口径 14.6cmを測り、内面に僅かだがミガキ状の痕跡がある。15は口縁部片で内外面にミガキが残る。16、17は調整は摩滅していて不明であり、焼成はやや軟質であるが黒灰色、灰白色を呈する。16は復元口径 16.0cmを測る。18～20は復元高台径 7.8、6.4、7.0cmを測り、摩滅していて調整不明である。21は青



第9図　7号溝出土遺物実測図（1/3）

磁皿片で緑灰色の釉がつく。22は石鍋片で、鍔付きのタイプである。口縁端部は僅かにしか残っていなかったが、復元口径16.8cmを測り、体部は内湾し、全体的に研磨されている。

B区9号溝（図版7　第7図）

7号溝の北側に位置し、南北方向に延びる溝である。長さ3.8m、幅55cm前後、深さ5cmを測る。埋土は暗灰色粘質土と黄灰色粘質が混ざり、土師器片、瓦器椀片の小片が出土した。7号溝と同様な埋土であり、途中切れるが、一連の溝である。C区内でも一部確認したのでここでも報告した。なお土器はB区側で、土師器小片、瓦器椀小片が出土した。

大溝（図版8　第10図）

調査区東側でB区とC区にまたがって北西方向に延びる溝である。長さ約36m、幅3.0m、深さ20～30cmを測る。C区側では、大溝のラインを検出できたがB区側にかけては、旧クリークに攪乱されていて、地山と遺構との区別が判らず、少し掘りすぎている部分もある。埋土は灰褐色粘質土に薄い暗灰色粘質土ブロックと黄灰色粘質土ブロックが混ざる。C区側にかけて土師器の甕が1個体出土した。この土師器が底面付近から出土し、更に柱穴状に掘り込まれていた。他の遺構に比べて古式土師器が多く出土している。また、この大溝は、東蒲池榎町遺跡の5号溝へと繋がる。

出土土器（図版10　第10図）

1～4は土師器である。1は高坏の脚部片である。外面は摩滅していて調整は不明であるが、内面は縦方向のケズリ調整が施される。2は小型丸底壺片である。外面は斜め方向、内面は横方向の刷毛目調整が施される。3は甕もしくは壺の口縁部片か。4は甕でほぼ完形品である。口縁～頸部にかけてやや外側に開き、胴部にかけては器壁が薄手になり、底面は丸底になる。外面はナデ及び刷毛目調整で、内面は胴部中程にかけてはケズリ状の痕跡が残り、他は指圧痕らしき調整が残る。

3）その他の遺構（図版9　第11図）

7号柱穴（図版9　第11図）

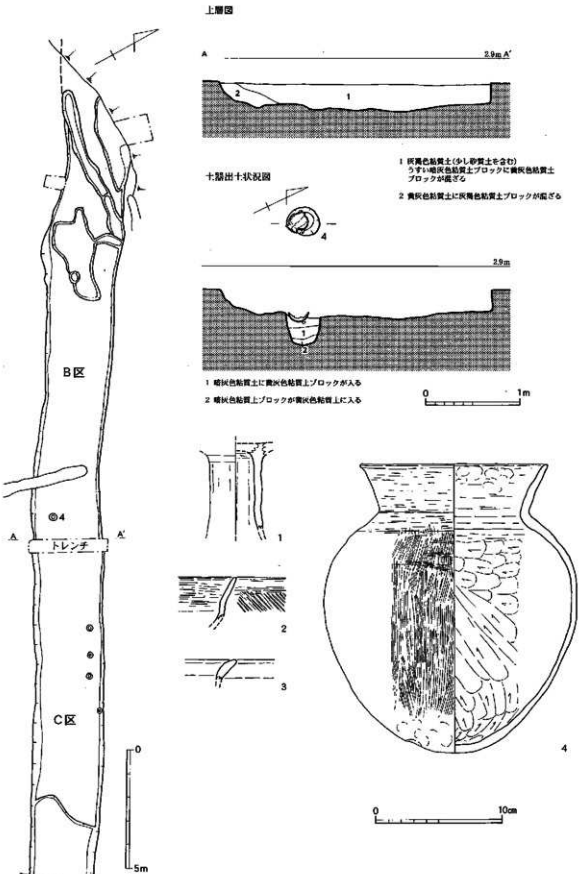
調査区東側に位置し、長径35cm、短径30cm、深さ20～37cmを測り、楕円形状を呈する。柱痕跡等は確認できなかったが、中から瓦器椀片が出土した。瓦器椀の下には、更に径10cmの柱痕跡状の円形の暗灰色粘質土の痕跡を確認し、15cm程掘り下げることができた。埋土は暗灰色粘質土と黄灰色粘質土が混ざる。

8号柱穴（図版9　第11図）

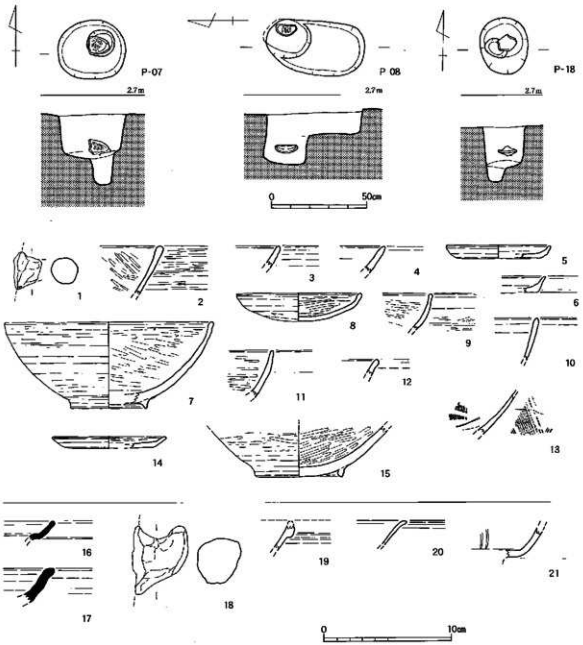
7号柱穴の西側に位置し、長径50cm、短径30cm、深さ10cm～25cmを測り、長円形状を呈する。更に15cm程、一段下がった中から瓦器椀片が出土した。埋土は7号柱穴と同様で暗灰色粘質土と黄灰色粘質土が混ざる。

18号柱穴（図版9　第11図）

調査区東側の7号溝のすぐ西側に位置し、長径30cm、短径20cm、深さ30cmを測り、楕円



第10図　大溝実測図及び出土土器実測図（大溝は 1/160、1/40、土器は 1/3）

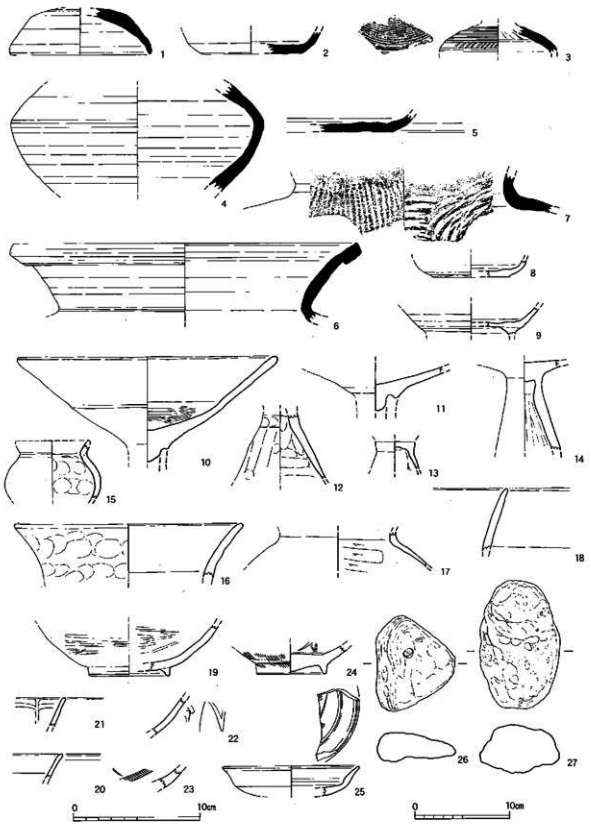


第 11 図　柱穴実測図及び出土土器実測図（1/20、1/3）

形状を呈する。上面からは柱痕跡を確認できなかったが、底面で約 10cmの円形の痕跡があり、10cm程掘れた。埋土は暗灰色粘質土で、7・8 号柱穴同様に瓦器椀片が出土した。

柱穴出土土器（図版 10　第 11 図）

1、2 は 1 号柱穴出土で 1 は土師器甑の把手片で、摩滅するがナデ状の痕跡が残る。2 は瓦器椀片で、胴部に比べて口縁部が厚くなる。灰黒色で外面は横方向、内面は斜め方向のミガキが施される。3、4 は 3 号柱穴出土で、土師器皿の口縁部片で内外面ともナデ調整である。5、6 は 6 号柱穴出土の土師器小皿片である。5 は復元口径 8.2cm、器高 1.1cm、復元底径 6.4cmを測る。7 は 7 号柱穴出土の瓦器椀で、復元口径 16.2cm、器高 6.8cm、復元高台径 6.0cmを測り、



第12図　C区出土遺物実測図（24、25のみ1/4、他は1/3）

内外面ともあまり残りはよくないがミガキ調整である。8、9は8号柱穴出土で、8は瓦器皿

片で復元口径 9.8cm、器高 2.2cmを測り、外面口縁はナデで、底部付近はケズリ、内面はミガキが施される。9は瓦器椀片で内外面にミガキが僅かに残る。10は9号柱穴出土の青磁碗の口縁部片である。11、12は13号柱穴出土の瓦器椀片で、11は内面にミガキ調整が残る。13は14号柱穴出土の同安窯系青磁碗片か。内外面に櫛目文、点描文が施される。14は15号柱穴出土の瓦器皿片で復元口径 9.0cm、器高 0.9cm、復元底径 6.8cmを測る。外面はナデ、底部は糸切り、内面にはミガキ調整が施される。15は18号柱穴出土の瓦器椀の底部片か。厚めの底部は外湾し、内外面はミガキ調整である。

旧クリーク跡出土土器（第11図）

16、17は須恵器片である。16は甕の口縁部片か。内外面ともナデ調整である。17は甕などの口縁部片か。18は土師器の杷手片で摩滅していて調整は不明である。19は一部欠損するが玉縁状の口縁部をもつ白磁碗の口縁部片である。Ⅳ類。20も白磁碗の口縁部片で口縁端部は嘴状になる。Ⅴ類又はⅦ類か。21は龍泉窯系の青磁碗片か。内面に文様が施される。

遺構検出面出土土器（図版10　第12図）

1～7は須恵器である。1は坏蓋片で復元口径 11.2cmを測り、内外面ともナデで外面天井部のみヘラケズリである。2は椀の底部片か。外面底部はヘラ切りである。3は甕片か。外面はカキ目及び刺突痕があり、内面には絞り及びナデの痕跡が残る。4は壺胴部片か。内外面にはナデ及びヘラケズリの調整がある。5は坏又は壺などの底部片か。内外面にはナデ及びヘラ切り調整が残る。6は甕片で、復元口径 27.0cmを測る。7も甕片で、内外面ともナデ調整で、外面肩部付近にカキ目が施される。8～18は土師器である。8は皿片で復元底径 6.2cmを測り、外面底部は糸切りである。色調は灰色を呈し、焼成も良く須恵器に近い。9は椀片で、高台部分は欠損する。10は高坏片で復元口径 20.6cmを測り、内面底部付近に刷毛目が残る。11も高坏片か。12～14は高坏の脚部片か。12、13は内外面ともナデ状の痕跡が残る。14は内面に縦方向のケズリが残る。15は小型の壺か。口縁は僅かに残り、外側に広がる。外面の調整は不明だが、内面には指頭圧痕が残る。16は甕又は壺の口縁部片か。口縁に向かって外側に広がり、外面には指頭圧痕が残る。17は甕片で内面にケズリが残る。18も甕などの口縁部片か。19は瓦器椀片で、復元高台径 6.4cmを測り、内外面にはミガキが残る。20は白磁碗の口縁部片か。21は、龍泉窯系青磁碗の口縁部片でⅠ－4類か。22は、龍泉窯系の青磁碗片で外面に蓮弁が僅かに残る。Ⅱ類か。23は同安窯系青磁碗片で内面に櫛目文が残る。24は同安窯系青磁碗片で復元高台径 5.5cmを測り、外面には櫛目文、内面に櫛点描文が残る。Ⅰ類か。25は、同安窯系の青磁皿片か。復元口径 10.9cmを測り、体部下位から口縁に向かって外側へ開く。内面には、櫛点描文が僅かに残る。26と27は軽石で、それぞれ、長軸、短軸、厚さ、重さは 5.1 × 4.1cm、1.5cm、7.0 g、6.7 × 4.2cm、2.5cm、15.9 gである。

現在の東蒲池大内曲り遺跡の風景（東から）

Ⅳ　おわりに

今回調査したＣ区では土坑６基、溝９本を確認できた。出土した土器からは次のような時代の遺構が確認できた。

弥生時代以前の遺構はほとんど確認できなかった。弥生時代の遺物としては、唯一弥生土器の底部片かと思われる土器を出土した２号土坑が挙げられる。土器はかなり摩滅して詳細な時期は不明である。また７号溝周辺の旧クリーク跡の埋土からではあるが汲田式頃の甕棺の口縁部片なども出土した。

次に古墳時代に関しては、大溝から前期頃の土師器の高坏脚部片、小型丸底壺片や甕などが出土しており、特に甕は１個体分がまとまって出土していることから考えても大溝はこの時期に関連するかと考えられるが、遺構の大きさに比べ遺物の出土量は少なく、また、この時期の遺構も他にないなど不明な部分は多い。その他に古墳時代の遺構は確認できなかったが、遺構検出時には前期頃の土師器の高坏片や後期頃の須恵器の坏や甕、壺、土師器の甑の把手片などの破片も出土した。当遺跡内では特に古墳時代後期の遺構はほとんどないが、この時期の遺物は、全体の出土量に比べては多く出土している。周辺でもまだ確認できていないがこれからの調査により古墳時代の様相が判明してくるだろう。

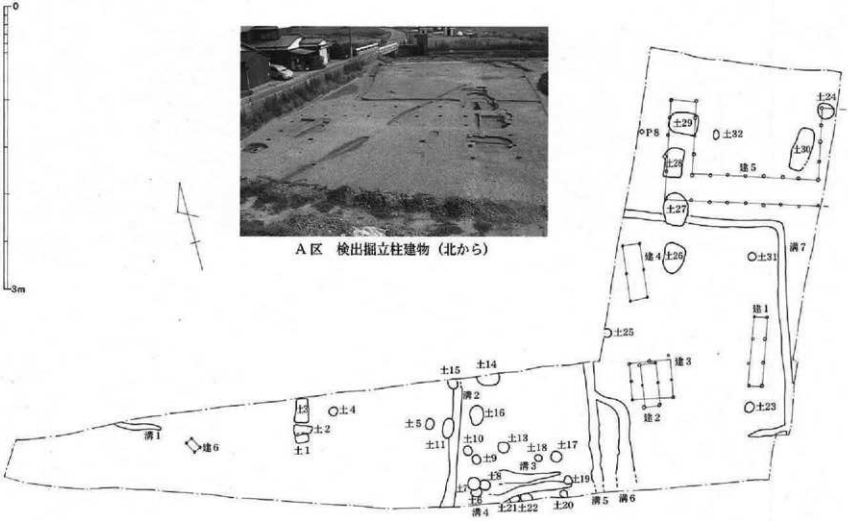
奈良時代及び平安時代の遺構は、クリークを挟んで南側の東蒲池榎町遺跡で土坑や溝を確認したが、当遺跡では確認できなかった。

間をおいて、平安時代後半から鎌倉時代では、11 世紀後半頃から 13 世紀にかけての遺物が出土した。１号・７号土坑などから、Ⅳ類、Ⅴ類又はⅢ類の白磁碗片が出土し、遺構検出時からは、龍泉窯系、同安窯系の青磁碗や皿のⅠ類も出土した。これから 11 世紀後半～ 12 世紀後半頃の時期が考えられる。また土坑、溝、柱穴から出土した瓦器椀片や石鍋片もおおよそ 12 世紀～ 13 世紀頃の時期を中心としたものと考えられ、その頃に遺跡が展開していたと考えられる。

12 世紀頃の蒲池地区は、宝荘厳院領の荘園の三猪荘に関係しており、当遺跡も何らかの関連が考えられるが、現状ではまだまだ不明な部分が多い。

なお、Ｃ区では遺構の密度は少ないが、Ａ・Ｂ区では掘立柱建物、土坑、溝などかなり出土しており、特にＡ区にかけてはコの字型に巡る柱穴列を持つ掘立柱建物やそれに関連する溝などを確認した。またそれらの遺構からは、12 ～ 13 世紀にかけての白磁碗や青磁碗などが多数出土しており、Ｃ区で検出した遺構もこれらに関連するのではないかと考えられる。Ａ・Ｂ区では良好な遺構が出土しているので、詳細は柳川市文化財調査報告書第２集『東蒲池大内曲り遺跡』を参照して頂きたい。

Ａ区　全景（空中写真　真上から）



第13図　東蒲池大内曲り遺跡A区遺構配置図(1 /400)

図　　版

1. 調査区遠景
（空中写真　西から）

2. 全景写真
（空中写真　真上から）

1. 西側全景 1
(空中写真　真上から)

2. 西側全景 2
(空中写真　真上から)

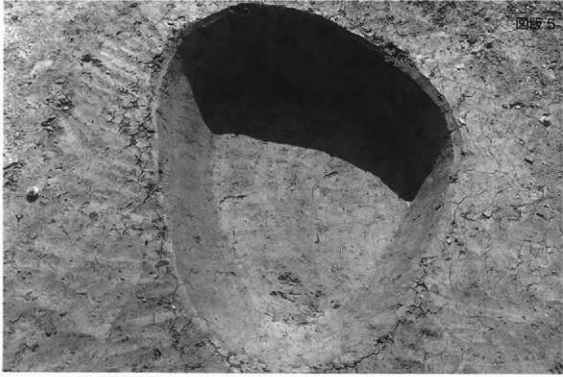
1. 東側全景 1
(空中写真　真上から)

2. 東側全景 2
(空中写真　真上から)

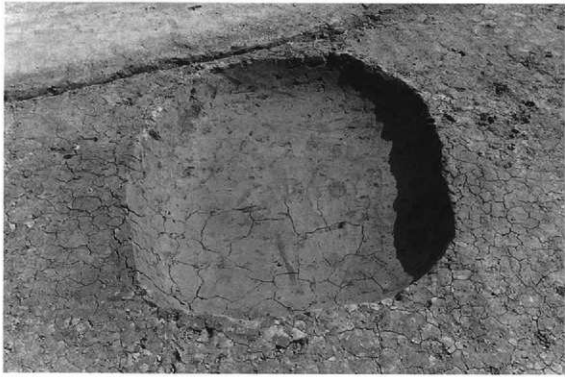
1．1号土坑（北から）

2．2号土坑
土器出土状況（北から）

3．3号土坑
骨出土状況（北から）



1．4号土坑（北から）



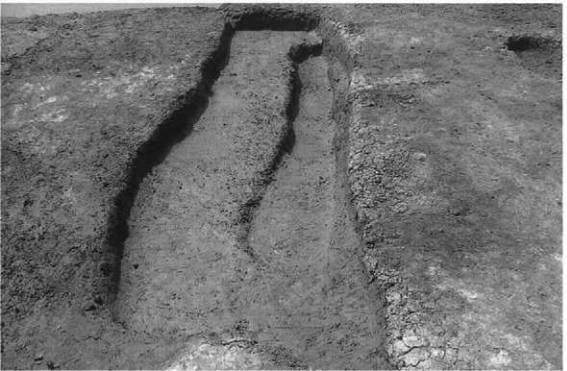
2．6号土坑（北から）

3．7号土坑（北から）

図版 6

1．3号溝（西から）

2．4号溝（北から）



3．5号溝（東から）

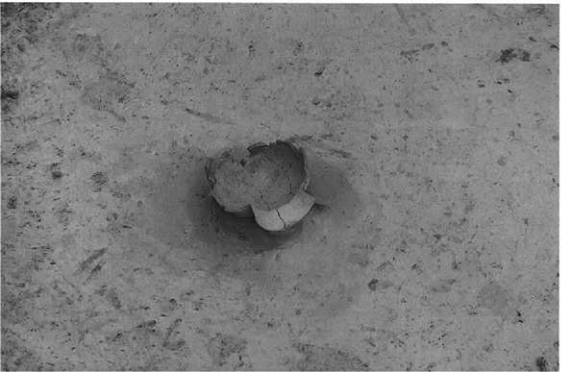
1．6号溝
土器出土状況（西から）

2．7号溝（北から）

3．B区9号溝（北から）

1.大溝（北東から）

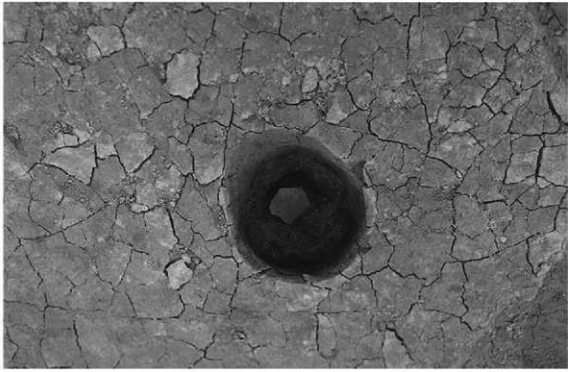
2.大溝（東から）



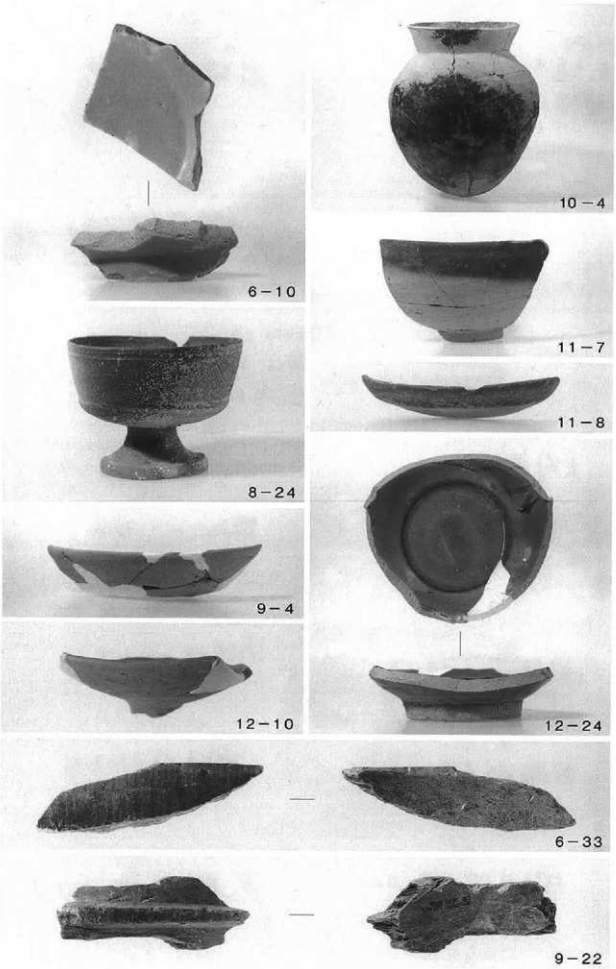
3.大溝
土器出土状況（南から）

1．7号柱穴
土器出土状況（南から）

2．8号柱穴
土器出土状況（南から）



3．18号柱穴
土器出土状況（南から）



C区　出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	ひがしかまちおおうちまがりいせき
書　　名	東蒲池大内曲り遺跡
副　書　名	福岡県柳川市東蒲池所在遺跡の調査
巻　　次	
シリーズ名	有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	2
編 著 者 名	坂本真一
編 集 機 関	福岡県教育委員会（教育庁総務部文化財保護課）
所　在　地	〒812-8577 福岡県福岡市博多区東公園７－７　TEL 092-651-1111　FAX 092-643-3878 E-mail　kbunkazai@pref.fukuoka.lg.jp
発刊年月日	西暦　2007年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ひがしかまちおおうちまがり 東蒲池大内曲り遺跡	ふくおかけんやながわし 福岡県柳川市	40207		33° 10′ 49″	130° 24′ 29″	2005.5.10～2005.10.31	1200㎡	道路建設（有明海沿岸道路大川バイパス）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東蒲池大内曲り遺跡	集落遺跡	弥生時代 鎌倉時代	土坑　溝　柱穴	弥生土器 須恵器　土師器 瓦　器 陶磁器　石製品	

要約	当遺跡は標高2.7mに位置する。調査区内では土坑、溝、柱穴を確認した。また調査区内の11世紀後半～13世紀にかけての陶磁器片や瓦器椀片などが出土した。なお近接するA区及びB区からは掘立柱建物及びそれに付随する溝が確認されている。

福岡県行政資料	
分類番号 JH	所属コード 2114107
登録年度 18	登録番号 3

有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第2集

東蒲池大内曲り遺跡

平成19年3月31日

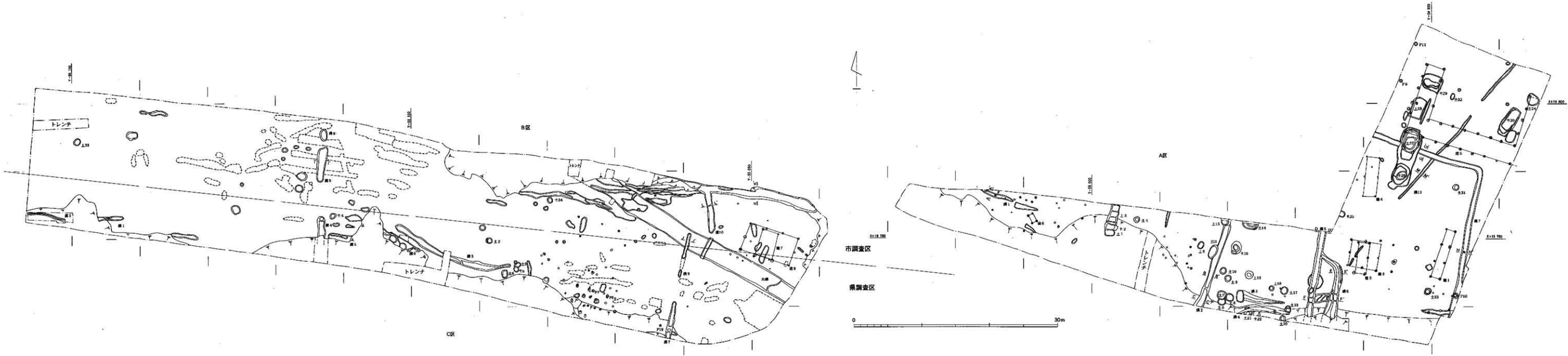
発　行　福岡県教育委員会
福岡市博多区東公園7－7

印　刷　マツオ印刷株式会社
嘉麻市上山田407

東蒲池大内曲り遺跡

有明海沿岸道路大川バイパス関係
埋蔵文化財調査報告　第２集

付図１　東蒲池大内曲り遺跡全体図（１／300）



付図１　東蒲池大内曲り遺跡全体図（1/300）